

ストップ 体罰【部活動編】

「しない・させない・許さない」

2013年11月 町田市教育委員会

- 1 部活動を暴力で汚してはいけない
- 2 部活動とスポーツの意義
- 3 求められる指導者像

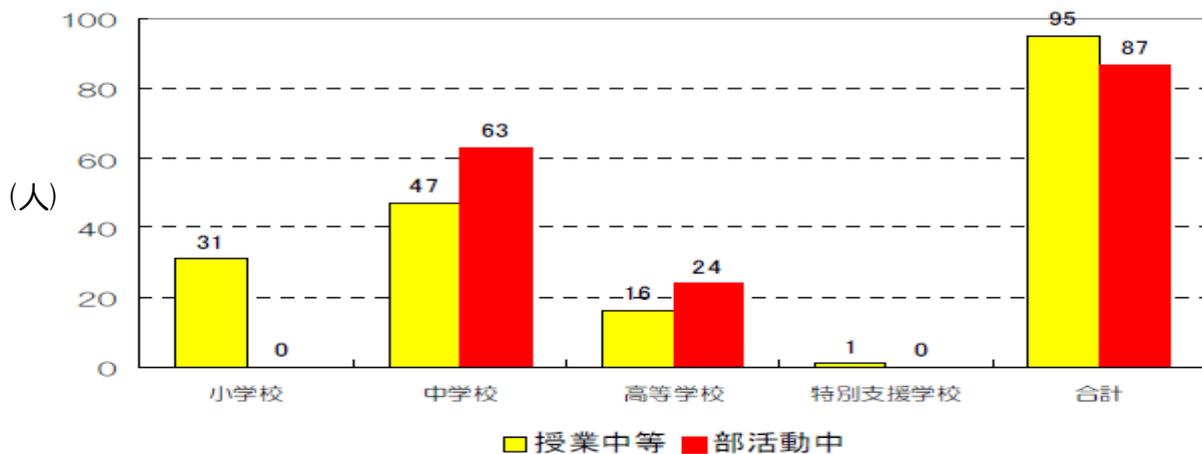
けが

1 部活動を暴力で汚してはいけない

(1) 体罰の一掃

2012年度に行った都内公立学校における体罰実態把握調査の結果、合計182人の体罰事案が明らかになりました。全体の52%が授業中等に、48%が部活動中に発生しました。しかし、校種別では、中学校、高等学校において、約60%が部活動中に発生しており、授業中を上回りました。部活動指導においても、生徒を体罰等の手法により育てるという考え方は誤っており、今後一掃されなければなりません。

平成24年度体罰実態把握調査における、場面別の体罰の状況（東京都）



「愛の鞭という言葉で表されるところの社会において存在すると思われる体罰に寛容な考え方を背景として、このように、大半の体罰等が、生徒及び保護者がこれに異を唱えないため、顕在化されることなく処理されてきたことこそが、これまで体罰が根絶されていない根本的理由の一つであるとする。」

(大阪市立桜宮高等学校バスケットボール部事件 外部監察チーム報告書から)

(2) 体罰の陰に隠れる暴言や不適切な指導

精神的苦痛は、肉体的苦痛と同等か、それ以上に、生徒の心身に大きな影響を与える場合があります。このため、生徒に精神的苦痛を与える「暴言」を体罰と同様に問題視していく必要があります。また、目的は誤っていなくても、指導内容・方法が生徒の心身の状況に合わない指導や能力の限界を超える危険な指導等は「行き過ぎた指導」となります。

●暴言の例

〈口癖のようなもの〉 死ね・消えろ・バカ・アホ・クズ・うざい・使えねえ

〈人格等の否定〉 デブ・チビ・ゴミ・病気か・お前らクソだ

〈部活動の私物化〉 部活を辞めろ・一生使わない・どうせ勝てない・二度と来るな
お前のせいで負けた

●不適切な指導の例

①遅刻した生徒を指導中、当該生徒が笑ったので、「ふざけるな」と言って胸部を押しした。

②繰り返し注意しても反応できない生徒の腹部に、ボールを当てた。

③試合に負けたため、生徒を一列に並べ、空のペットボトルで、全員の頭を軽く叩いた。

2 部活動とスポーツの意義

(1) 部活動の教育的な意義

部活動は、学校が教育活動の一環として計画・実施するものであり、極めて重要な教育的な価値があります。

○思いやりの心や

自主性・社会性の育成

○豊かな人間関係や

生涯学習の基礎づくり

○生徒の個性・能力の伸長

や体力の向上、健康増進

(2) スポーツの本来的な意義

〈スポーツの語源〉

「気晴らしをする」「楽しむ」
スポーツをすること自体が、喜びや楽しさをもたらす活動です。

〈文化としてのスポーツ〉

「世界共通の文化」
子どもから大人まで、障害のある人もない人も、言葉や生活習慣を越えて、誰もが共に楽しみ、競うことができます。

〈スポーツの効果〉

「身体の機能や体力・技能の維持・向上」
部活動は、同好の生徒が、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、活動の楽しさや喜びを味わいます。

「社会性の発達」

ルール・マナーに関する合意の形成
適切な人間関係の構築

3 求められる指導者像

指導者自らがスポーツ文化を理解し、プレイヤーと互いに尊敬し合い、プレイヤーの立場に立ち、サポートしていく指導者が求められています。

部活動顧問教諭は、誰もが専門的な知識・技能や高いコーチング能力を有するとは限りませんが、教育活動の一環として設置した部活動の顧問として、生徒のニーズを理解したうえで、その役割を果たすことが大切です。

〈顧問に期待される役割〉

- スポーツとの出会いをコーディネート
- 生徒相互の仲間づくり
- スポーツを継続するサポート
- マナーやエチケット等の道徳的規範の育成
- 意欲、自立心や協調性・社会性の育成
- 信頼関係の醸成

〈身に付けたい資質・能力〉

- スポーツの楽しさを体現するモデル
- 適切な目標水準の設定
- 専門的な知識・技能
- 的確な練習内容・方法
- 高いコーチング能力
- 人間的な魅力

【参考・引用】 体罰根絶に向けた総合的な対策 部活動指導等の在り方検討委員会報告書
(2013年9月12日 東京都教育委員会)